

風水害

事例
1

床上浸水が発生した地区に出動し、浸水家屋から住民を救助しようとした際、急激な増水で水位が腰まであり、流れがあったので、要救助者もろとも流されそうになった。



結果

負傷者なし

 対策

このような状況が想定される場合はゴムボート等を活用する。

ゴムボート等を活用する場合は、あらかじめ救命胴衣を着用し、安全確保用ロープを展張して救助活動を行う。

ボートの特性や使用上のポイントなどについて、教育訓練を行う。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

搜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

その他
点検整備

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備
その他

風水害

事例
2

床下浸水が発生した住宅地に出動し、住宅浸水現場から50mほどはなれた土手で排水作業を行うため筒先担当員として筒先を保持していた際、雨量の多い深夜であり、可搬ポンプから20mのホースを使用しており、機関員が見えない状況で、いきなり高水圧で送水が開始されたため筒先をささえきれずに手を放したとき筒先が左手に当たった。

結果

負傷者なし

対策

筒先には、筒先保持員と補助者を配置する。

機関員は、送水中、圧力計を監視する。

機関員は、予備注水の際は延長ホースの見える範囲にとどめる。

風水害

事例
3

土砂崩れ現場に出動し、現場の山の法面で応急処置としてブルーシートを張っていた際、大雨のため地面がぬかるんでおり、また作業スペースが十分に確保できていなかったため地面に足を取られ転倒した。

結果

腰椎捻挫及び足首捻挫

対策

現場指揮者の指示、命令に従って活動する。

安全な作業スペースを確保する。

安全監視員を配置する。

風水害

事例
4

台風接近による水害防御活動中、住宅地付近の用水路で水位の上昇により被害発生が予測されたため、土のう積みをしていた際、周囲が暗く、大雨により足場が軟弱であったため、足を踏み外し用水路内に転落した。



結果

負傷者なし

対策

作業危険エリアを明示し活動する。
安全監視員を配置し、作業危険の監視と安全指示の徹底を図る。
個人装備（ヘッドライト）を装着して活動する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備
その他

風水害

事例
5

強風下に出動し、木造平屋建ての住宅の屋根にシートを張るため、はしごを架け4段ほど上った際、足もとが泥で滑り、はしごが屋根からはずれたため、外壁に当たりながら転落した。



結果

負傷者なし（低位置からの転落だったので）

対策

はしご登はんの時は、必ずはしご確保要員を配置する。

はしごを架ける場所は、頑丈な箇所を選定し、可能な限り固定措置を行う。

二連はしごの場合は、必ず掛金をかけ、引き綱をとる。

屋根上では確保用支持点を設け、確実に身体を確保する。

風水害

事例
6

暴風雨の状況下に出動し、突発的に発生した暴風で家屋の屋根や看板が散乱したため、その排除作業に従事していた際、約5mの高さにある看板が剥がれそうになっているのを発見し、排除作業をしようとしたとき、風にあおられて飛んできた看板が顔面を直撃しそうになった。

結果

負傷者なし

▶▶▶ 対策

作業は2名以上で行う。
安全監視員を配置する。
ヘルメットなどの保安具を必ず装着する。

風水害

事例
7

夜間の豪雨災害に出動し、民家への浸水を防ぐため山間の道路で土のうを積む作業をしていた際、足もとを濁流が強く流れており、膝くらいの水深があり、道路の状況が確認できず足が側溝に落ち転倒した。

結果

足部擦過傷、手首捻挫

▶▶▶ 対策

照明器具を配置し、作業エリアを確実に照明する。
安全な作業エリアを設定する。
安全監視員を配置する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

その他
点検整備

風水害

事例
8

豪雨に伴う水防活動に出動し、分団管内の県道を警戒巡視のため自家用車で一人で巡回中、豪雨のための視界不良及び河川の越水により路線確認が困難であったため（推測）車両ごと濁流に流された。



結果 死亡

▶▶▶ 対策

警戒巡視は、必ず2名以上で実施する。

警戒巡視ルート指定、又は定点監視場所の設定など安全の確保を図って巡視を行う。

警戒本部と巡視員間に無線等による緊急連絡体制を確立する。

風水害

事例
9

豪雨に伴う水防活動に出動し、警戒巡視のため消防車両（3名乗車）で巡回中、水位確認のため降車し河川に近づいた際、豪雨による濁流により路面下がオーバーハングになっていることに気づかず、路面が崩壊し3名とも河川に転落した。1名は自力で脱出したものの2名は濁流に流された。



結果

死亡2名、
打撲、擦過傷1名

対策

河川の水位が安全に確認できる場所を事前計画で策定し、それに基づき巡回等を行う。

河川情報をリアルに収集しながら巡視（監視）活動を行う。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

その他
点検整備

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

その他
点検整備

風水害

事例
10

河川が増水し、膝上まで冠水した橋の上を住民の避難誘導に向かうため歩いていた際、橋の上の水流が強く、足もとが滑り、流されそうになった。



結果

負傷者なし

▶▶▶ 対策

避難誘導経路は、他の安全なルートを選定する。

緊急やむを得ない場合は、安全確保用ロープを展張、かつ命綱を必ず装着して2名以上で行動する。